

JAPAN ICOMOS / INFORMATION

INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES

JAPANESE NATIONAL COMMITTEE 日本イコモス国内委員会

6期—9号



2006.03.17

CONTENTS ♣

はじめに／前野まさる 01
From the President/Masaru MAENO

追悼／上野邦一 02
Mourning /Kunikazu UENO

2005年次第4回拡大理事会報告(12/23)／赤坂 信 02
Reports on the 4th Meeting of the Executive Board, 2005
Makoto AKASAKA

日本イコモス国内委員会 2005年次総会記録 05
General Meeting of JAPAN ICOMOS, 2005

シンポジウム： 14
“Monuments and Sites in their Setting”
(第15回 ICOMOS 中国西安大会のテーマ) に関する講演と討論
Symposium:
Lectures and Discussion on the theme “Monuments and Sites in
their Setting” of ICOMOS 15th General Assembly and Scientific Sym-
posium in Xi’an China

伊藤延男顧問の ICOMOS 名誉会員と岡田保良 ICOMOS 執行委員選出
のお祝いと西村幸夫 ICOMOS 副会長任期終了をねぎらう会 14
Celebrating Party for Prof. ITO recommended as Honorary Member
ICOMOS, Prof. OKADA elected as Executive Member ICOMOS and
Prof. NISHIMURA resigning from the Vice President

遺産建築構造の解析保存部会 (ISCARSAH 2006) 報告 15
／岩崎好規
ICOMOS ISC, ISCARSAH 2006 (Analysis & Restoration of Structure
of Architectural Heritage)
Yoshiki IWASAKI

事務局日誌 18
Diary



イラスト(全て)／前野まさる

はじめに
前野まさる



本年は、昨年末の鞆の浦問題で、議会関係者、行政関係者との打ち合わせなどで多くの時間を費やしました。地方分権の政策によって、中央政府は中々関与できず、また、地方行政も一旦決まったことは変更せず、ICOMOS の決議があっても聞く耳は持ちません。よくぶつかる問題ですが、歴史的遺産の保存と地域開発の難しさ、この先どうなるのか楽観を許しません。

去る2月19日、日本イコモス会員の小寺武久氏が亡くなりました。小寺氏は昭和40年代に南木曾町の町並み調査をはじめ、東海地域の町並み保存、さらにはインド建築調査にまで足を広げ、視野の広い方でした。小寺武久氏のご冥福をお祈りいたします。

ところで、年初めに相応しくないご挨拶ですが、日本イコモス国内委員会の財政が、会費の未納問題で窮地に立っています。状況お察しの上よろしく願います。

追悼

小寺武久先生の訃報に接して

奈良女子大学 上野邦一

小寺先生の訃報が2月19日夜遅く届いた。先生と言うよりも「アニキ」という感じであった。おそらく、先生が名古屋大学に赴任してから4、5年の間に卒業した学生の共通した印象であろう。若く、酒飲みの先生のイメージがこびりついているのは、私だけではあるまい。

私は、建築史を研究する職に就き、結果的に言えば先生の学問を受継いだことになる。しかし、厳密に言えば私が建築史を選んだ理由は分からない。学生時代から院生時代にかけての同世代との議論、そこにいつも先生が加わっていて、その過程で建築とか空間とかを考えさせられた。造ることではなく、残っている建物を考えることで、私は建築とか空間を追跡することになった。

小寺先生と調査をともにしたことは以外に少ない。長野県妻籠を院生時代に、職を得てからは、調査要員として呼ばれ岐阜県白川、三重県関の調査に参加したことが記憶にあるぐらいである。小寺先生は、先生と「アニキ」の中間のような存在で、調査に参加していた若者に接していた。昼間の調査を肴にして、夕方からあれこれ議論するのが、何よりの愉しみだった。建物の善し悪し、保存との絡み合い、などを夜遅くまで議論した。その中で建築を丁寧に観察し考えること、当時の生活のありよう、これからの地域の展開との関わりを見据えることを常に述べていた。

悲しいというより残念という、気持ちが強い。私の学問の蓄積を土台にして建築・空間の考えについて再び意見を戦わしたかった、と思うからだろうか。残った者から師への御礼は、ただ優れた社会的貢献を心がけることだけかな、としばし感慨にふけるのである。

合掌

2005年度第4回理事会が去る2005年12月23日(金)午前10時から12時まで和敬塾(旧細川侯爵邸内、東京都文京区)で開催された。出席者は、委員長:前野まさる、理事:赤坂 信、石井 昭、伊藤延男、稲葉信子、岡田保良、小野 昭、西浦忠輝、西村幸夫、益田兼房、山田幸正、矢野和之、事務局:水口 泉(陪席)の各氏で、報告事項及び審議事項委は以下の通りである。

報告事項

「2005年次総会」資料に基づき、以下の報告事項が確認された。

1. 2005年次一般報告

2005年次の拡大理事会は本会も含めて4回開催された。2005年12月22日現在で、267名、維持会員11社。本日承認が予定される入会者は8名、退会者は1名、維持会員2社である。

2. 国際専門分科委員会(ISC)の活動報告

(1) Rock Artの2005年度のISC活動

ICOMOSのCAR(Comité d' Art Rupestre、訳語では「岩面画委員会」と称する)日本国内委員会では、新たに洞窟壁画の研究者である五十嵐ジャンヌ氏を会員として迎えることができ、これにより、ようやく筆者と2名による研究グループとなった。この2名を中心に、従来から研究組織が存在していて、その構成員は「岩面画」に関心を持つ考古学研究者など約10名に達する。この研究組織にはまだ名称もなく、今後整備していかなければならないが、北海道余市町にあるフゴッペ洞窟の岩面刻画(Petroglyph)の共同研究に端を発しており、1995年以降10年間にわたって、主に科学研究費の採択を受けて、フゴッペ洞窟と隣接する小樽市にある手宮洞窟を中心に調査研究し、さらにロシア・シベリア地域やフランス・スペインでも共同研究を行ってきた。

2005年度は3月に朝鮮半島東南部の岩面画遺跡であ



る盤龜臺（パングデ）、川前里（チョンジョンリ）そして尚州里（サンジュリ）の3カ所を計11名により調査した。とりわけ最後の尚州里は、1919年に鳥居龍蔵がフランス語文献において報告しているのみであり、朝鮮半島以外ではほとんど知られていない遺跡であり、これを日本の研究組織が調査したことはひとつの画期を示すことになっただろう。

2006年2月には、計10名により山口県下関市にある彦島杉田（ひこしますぎた）遺跡を調査した。これは従来から非学術的な組織により喧伝され、「超古代文字」の名のもと誤解にさらされてきており、適切な調査研究の必要性が認識されてきた。しかし、根拠のない反撃にさらされるなど現実的には困難なところもあり、今後は学術的な研究組織をさらに整備して、万全の体制で臨まなければならないだろう。その際、ICOMOSなど国際的に認知された学術団体を基盤にするのが必須であろうと考えられるので、諸氏のご支援を願いたいところである。（小川 勝）

(2) 文化遺産保存制度 2005年11月のブリュッセル会議の報告とISC会議

考古学的文化財についての会議であったが、筆者は大学の業務と重なり、出席できなかったため、送られてきたアンケートに、わが国文化財保護法上の埋蔵文化財に関して回答した。会議の詳細については議事録が未着なため執筆時点で承知していない。2006年は日本で、2007年はルーマニアで開催予定である。

2006年の日本での会議の進行状況は、「有形文化遺産の無形的側面と無形文化遺産の法的検討（仮題）」というテーマのもとに、法律問題に関する Scientific Committee を2006年10月または12月に日本で開催する方向で現在準備を進めつつある。場所、正確な日時については後日お知らせする。（河野俊行）

(3) 歴史的庭園および文化的景観ISC報告

西安における第15回イコモス総会においてISCの会議は10月18日夕刻、10月19日夕刻にAurum International Hotelで開催された。当初、本ISCは参加者が確定でき

ないことから開催が危ぶまれていたが、一部の委員の参加で開催可能となった。しかし重要事項については次回のパルトガルの会議で決することとなっている。参加国はイタリア、イギリス、アメリカ、ベルギー、スペイン、ハンガリー、韓国、日本で、日本からは杉尾伸太郎が理事及び副委員長として、赤坂信がオブザーバーとして参加した。

イコモスとベニス憲章40周年を記念して当ISCも3枚のパネルを出すこととなった。

2006年9月には湖と庭園というテーマでシンポジウムが、2007年にはバロックガーデンについてのセミナー、などの行事が予定されている等々の報告があったが詳細は未定である。

しかし2006年4月29、30日5月1、2日のパルトガルのコインブラでの会議は予算措置に苦心しているようであるが、一応予定通り開催される見込みである。日本からは紀伊山地の霊場と参詣道の世界遺産決定についての各国のサポート、特に審査に当たった韓国の黄先生への謝辞と日本の登録ランドスケープアーキテクトの制度と現状、最近の歴史的庭園の修復状況、新しくできた「景観法」等について報告を行なった。

今後当ISCも「老舗」としての独自路線からイコモス全体のISCのあり方と整合性をもった改革を進める必要が出てこよう。なお非公式ながら2009年における当ISCを日本で開催することについての打診と要望があった。



審議事項

1. 入会者および退会者の承認

入会（個人）

氏名	所属	推薦者
宇高雄志	兵庫県立大学環境人間学部助教授	八木雅夫・益田兼房
松田正允	文化財保存計画協会事務局長	矢野和之・益田兼房
松本静夫	福山大学工学部建築学科教授	矢野和之・朴永周
高木規矩郎	早稲田大学理工学総研客員教授	山田利行・前野まさる
平野勝也	東北大学大学院情報科学研究科講師	矢野和之・佐々木政雄
横山晋一	ものづくり大学建築学科講師	矢野和之・高木浩志
中井 祐	東京大学社会基盤学科助教授	矢野和之・佐々木政雄
窪寺 茂	奈良文化財研究所 文化遺産研究部建造物研究室	益田兼房・矢野和之

入会（維持会員）

社名	代表者	推薦者
北野建設(株)	福島実営業部長 (社寺改修保存工事)	矢野和之・前野まさる
(株)小林石材工業	小林美知 (石垣修復元)	矢野和之・前野まさる

退会者

氏名	理由
猪熊兼勝	奈良文化財研究所 本人の希望による

2. 国際専門分科委員会委員の承認

* Photogrammetry (写真測量・文献CIPA) 西村 康氏から高瀬 祐氏と山田 修氏に交代依頼。

高瀬 祐氏はISPRS組織会員としてCIPAに登録、山田修氏をVoting memberに。

山田 修氏

勤務先 (株)キャドセンターデジタルアーカイブ・ラボ主任研究員

2005年5月 デジタルコンテンツシンポジウム船井賞受賞

* Rock Art Associate Member (岩面画美術) Rock Art Voting Memberの小川 勝氏

五十嵐ジャンヌ氏をRock Artの強化のために加えたい

との申請を受けていた。

五十嵐ジャンヌ氏

勤務先 早稲田大学オープン教育センター

2003年 フランス国立自然史博物館にて先史学研究で博士学位授与
先史学・岩面画美術研究

* Cultural Route Associate Member (文化の道)

杉尾邦江委員から大野 渉氏をAssociate Memberにとの要請を受けていた。

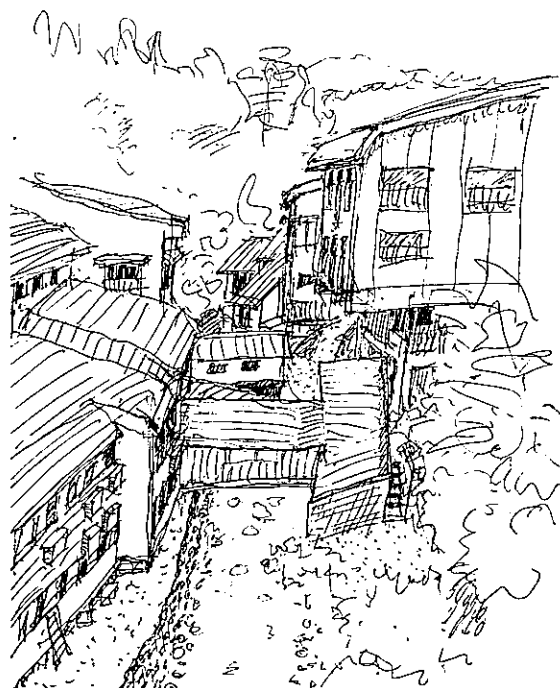
大野 渉氏

勤務先 ブレック研究所行政計画室主査 文化庁世界遺産登録業務

* Analysis and Restoration Structures of Architectural Heritage Voting Member (建築遺産構造解析)

日高健一郎氏から花里利一氏に交代。

花里利一氏 勤務先 三重大学工学部建築学科教授



日本イコモス国内委員会 2005 年次総会記録



日本イコモス国内委員会 2005 年次総会が去る 12 月 23 日(金)午後 1 時から 3 時まで和敬塾学生ホール小講堂(旧細川侯爵邸内、東京都文京区)で開催された。出席者は 33 名、会員諸氏からの委任状は 116 通で、定足数(会員の半数)を 15 名上回り、総会は成立した。議事は報告事項と審議事項、さらに協議事項に分けて進められた。

報告事項

1. 2005 年次一般報告

(1) 理事会

2005 年次の拡大理事会は 4 回開催された。

第 1 回拡大理事会は 3 月 12 日(土)文化財保存計画協会会議室で開催。出席者 7 名。内容は JAPAN ICOMOS INFORMATION 誌 6 期 6 号に掲載されている。

第 2 回は 5 月 14 日(土)文化財保存計画協会会議室で開催。出席者 10 名。内容は JAPAN ICOMOS INFORMATION 誌 6 期 6 号に掲載されている。

第 3 回は 9 月 10 日(土)文化財保存計画協会会議室で開催。出席者 10 名。内容は JAPAN ICOMOS INFORMATION 誌 6 期号に掲載されている。

(2) 担当理事報告

会員担当(杉尾伸太郎理事)

2005 年 3 月 12 日現在で日本 ICOMOS 国内委員会に登録されている個人会員は 248 名、維持会員は 12 社でした。2005 年 12 月 22 日現在で入会者 23 名、退会者 1 名で 267 名。退会維持会員 1 社で 11 社です。今回理事会で承認された入会者は個人会員 8 名、維持会員 2 社、退会者 1 名です。

渉外担当(稲葉理事)

2004 年度に引き続き、ICOMOS 関係の海外情報の収集・伝達、海外対応を継続してきたいと思います。

広報担当(山田理事、赤坂理事)

〈ホームページ担当〉

日本イコモス国内委員会のホームページの立ち上げ

については、長年にわたり懸案となっておりましたが、ようやく本格的な検討をはじめ、昨年一応、試作版を理事会において披露いたしました。掲載すべきホームページの骨格についてはおむね承認をいただきましたが、内容的に十分にそろっていて満足いただける段階まで達しておらず、とうてい一般公開に耐えられるものとはなっておりません。

ICOMOS および国内委員会の概要などに関する文言はおもに「しおり」(A4 判三つ折り)によるもので、世界遺産との関係がきちんと書かれていないなど、多少内容的に古くなってしまった部分も含まれているとの指摘もいただいております。ほかに実際に掲載できるものとしては、日本イコモス国内委員会規約や既刊の [JAPAN ICOMOS INFORMATION] 誌の内容くらいしかないのが現状です。

来年度において、現状のものをもとに、さらなるバージョンアップをはかり、できるだけ早い時期に一般公開していきたいと考えております。検討すべき事項はまだたくさん残されておりますが、とくに英語版の作成、日常的なメンテナンスなどが最も大事なことであると考えております。また、掲載する内容の一層の充実をはかるためには、各理事をはじめ、それぞれの国際専門委員会や小委員会などの積極的なご協力をいただかなくてはなりません。新たな予算を計上して一部を外部発注することも含めて、理事会・事務局でご検討いただきながら、一般公開へむけての道筋を来年度中につけたいと考えております。(山田幸正)

〈編集担当〉

JAPAN ICOMOS INFORMATION 誌は今後も会員相互の情報交換の場としての機関紙の役割を全うし、また ICOMOS をめぐる世界の動きを国際委員会の活動を通じてお知らせしたいと考えています。(赤坂 信)

2. 2005年次会計報告ならびに監査報告

<日本イコモス国内委員会 2005年次会計報告(2004/12/8～2005/12/22)>

日本イコモス国内委員会 2005年次会計報告 (2004/12/8～2005/12/22)

1. 前年度より繰越		1,466,556 円
2. 収入		
会費		2,750,000 円
会員会費	2001年～2004年分	100,000 円
	2005年分	2,150,000 円
	2006年～2007年分	50,000 円
維持会員会費		450,000 円
国際会議助成金		3,024,316 円
寄付金		512,873 円
会議資料成果報告書作成費		300,000 円
普通預金利息		15 円
定期預金利息		3,014 円
合計		6,590,218 円
3. 支出		
ICOMOS 本部年会費 (40ドル×250人)		1,077,682 円
会議費 (総会・理事会・他)		35,820 円
国際会議費		3,064,356 円
INFORMATION 誌 編集・印刷費 (4回)		891,871 円
通信費		380,124 円
事務用品費		138,198 円
事務局人件費		719,540 円
イコモス国際学術専門委員招聘費		488,873 円
報告書 (CIAY)		24,465 円
翻・訳料		30,000 円
図書購入費		2,625 円
慶弔費		4,725 円
合計		6,858,279 円
4. 収支 (収入-支出)		-268,061 円
5. 次年度へ繰越		1,198,495 円
6. 銀行預金残高		
定期預金 (イコモス研究振興基金)		12,550,000 円
普通預金		1,198,495 円
計		13,748,495 円

以上の通り報告します。2005年12月23日

..... 会計担当理事

矢野和



渡邊保弘



会計監査欄

2005年12月23日

監事

澤田正姫





3. ICOMOS 国際会議および西安総会 2005 年次報告

ICOMOS アジア太平洋地域会議

(インフォメーション誌 6期-7号に報告記)

5月30日~31日/韓国ソウル市テーマ:「アジアの歴史的都市集落の観光運営」参加9カ国

ICOMOS 理事会

6月13日~15日/キューバ ハバナ市で開催。

ICOMOS 第15回西安総会

(インフォメーション誌 6期-8号に報告記)

日程

- 10月14日 執行委員会
- 10月15日 執行委員会、
- 10月16日 執行委員会、地域別会議、
- 10月17日 開会式、シンポジウム
- 10月18日 国際専門分科会議 (ISC)、研究発表
- 10月19日 西安世界遺産視察
- 10月20日 国際専門分科会議 (ISC)、研究発表
- 10月21日 全体会議、役員選挙
- 10月22日 新執行委員会

総会資料ならびにインフォメーション誌6期-8号に西村幸夫イコモス副会長の西安イコモス大会の報告があるので、あわせてご覧いただきたい。

4. 各国際専門分科委員会 (ISC) およ び各小委員会報告

各国際分科委員会 (ISC)、各小委員会から総会資料に基づいて報告があった。以下、その概略である。

(1) ICOMOS 国際専門分科委員会ISC報告 2005年1月~12月

* Archaeological Heritage Management (考古遺産管理: 小野 昭、岸本雅敏)

西安 ICAHM 会議 10月ブリュッセル会議、ICAHMの主体的な動きが見えません。2006年執行部の改選があります。

* Analysis and Restoration Structures of Architectural Heritage (建築遺産構造解析: 日高健一郎、坂本 功、西澤

英和)

2005年6月15~18日、バルセロナ カタルーニャ大学 出席者16カ国19名 日本イコモスメンバー交代を考えているので総会でご承認願います。次回会議は2006年2月21~25日キプロスで開催予定。

* Cultural Routes (文化の道: 杉尾邦江)

西安総会時に役員選挙。杉尾邦江はアジア地域副会長アシスタントとして立候補当選。西安総会 Section 4で杉尾邦江が“A consideration on the definition of the setting and management protection measures for cultural routes”と題し発表。12月16日、韓国イコモス国内委員会委員長から中・韓・日の陶器貿易の道の研究会の提案が来ています。

* Earthen Architectural Heritage (土の建築: 岡田保良)

暫定委員会が西安での総会時に執行委員会により公認されました。コアメンバーによって推薦された20名ほどの委員から構成されます。この総会の期間中に少人数でしたが、暫定委員長Jハード氏、副のP. ジェローム女史らと2回の会合を持ち、今後の運営方針等を話し合いました。以下は2005年10月18~19日に開かれた会議の議事録抜粋です。

- ①国内委員会と国際専門委員会との関係、「専門評議会」(本部に設置)なる新機関と既存専門委員会・執行委員会との関係、ISCHEA規則 (statutes) 原案の検討など、「エゲル西安原則 Eger-Xi'an Principles」の要点を確認した。
- ②暫定委員会のもとで正式の委員会を発足させるための選挙を2006年1月中に行なう。
- ③小冊子製作、ウェブサイトの開設などむこう3カ年の計画案策定。
- ④2008年にTerra国際会議(第10回)を開く。

目下、1月予定の正式メンバー選出手続きについて意見交換を行ないつつ、ゲッティ研究所の協力を得ながらTerra会議の開催要領(第6次案)を検討しています。こうして休眠中だった委員会がようやく動き出しましたが、西安での出席者が少なかつたため、上記のような

議論も有志による勧告という以上のものではありません。新しい本部機関との調整もこれからの課題です。

なお、これと呼応する日本国内の専門委員会の発足が求められており、任意の連絡網「アドベの会」をベースに、上記の委員会規則を尊重して手続きを進めようと考えています。

* Historic Garden and Cultural Landscape (歴史的庭園文化的景観：杉尾伸太郎)

2月11日～13日 ベルギー ブラッセルで開催、主な決定事項：役員選挙 会長はルイーダ氏(イタリア)当選し、杉尾伸太郎は副会長としてアジア・オセアニア地域担当となりました。取り組みとし造園教育水準確保のプロジェクトを進めること、世界遺産推薦・登録・審査に関するノウハウのワークショップを行なうことの必要性と推進があります。次回会議開催予定2006年ポルトガル、2007年ノルウェー、2008年アメリカが立候補。

* Historic Towns and Villages (歴史的町並み集落：福川裕一、上野邦一)

2005年次会議は5月21日～24日イスタンブールで開催されました。

* Legal Issue (文化遺産保存制度：河野俊行)

2005年次は11月23日～26日にブリュッセルで開催された。テーマは、考古学的文化財(動産・不動産)に関する法制度比較、であった。2006年次は日本での開催が求められており、河野は内諾している。テーマは未定であるが、「有形遺産の無形的価値」または「文化的景観」はどうかと考えている。また開催地財政的支援等についてのご助言を賜りたく、その節はよろしく願います。

* Photogrammetry (写真測量文献CIPA：高瀬 祐、山田 修)

Voting Memberの交代、西村 康氏から高瀬 祐氏、山田 修氏へ交代をCIPAと打ち合わせしていました

が、CIPAのピータ氏によると高瀬氏はすでにISPRSの組織会員としてCIPAに登録され、山田氏を日本のVoting Memberとして出すように依頼されております。

* Rock Art (岩面画：小川 勝)

五十嵐ジャンヌ氏をAssociate Memberに。

* Risk Preparedness (ICORP文化遺産防災：益田兼房)

日本イコモス文化遺産防災アジア・環太平洋地域専門家会議：1月14日～17日京都で開催。

1月16日「文化遺産防災・京都宣言2005」を採択する。12月24日～16日 世界遺産保護国際セミナーを京都で開催、ユッカ・ヨキレット氏参加する。

* Stone (石質遺産：西浦忠輝、石崎武志)

2005年2月11日～12日にポルトガルのリスボンで委員会が開催された。2002年1月のパリでの委員会で選出された役員(委員長、副委員長、事務局長)は任期を終えるため、この委員会で選挙を行なう予定であったが、出席したボーティングメンバーが過半数に満たなかったため、電子メールによる選挙に切り替えることとなった。

2005年8～9月に電子メールによる選挙が行なわれ、ボーティングメンバー22人中、有効投票数16、賛成16、反対0で2008年2月までの新役員が決定した。

委員長：[旧] Isabelle Pallot-Frossard (仏)

[新] Velonique Verges-Belmin (仏)

副委員長：[旧] Tadateru Nishiura (日)

[新] Tamara Anson Cartwright (加)

事務局長：[旧] Velonique Verges-Belmin (仏)

[新] Jean-Marc Vallet (仏)

2005年10月18、19の両日、中国の西安において、ICOMOS総会・シンポジウム期間中の18時以降を利用して、委員会が開催された。2005年11月25～26日フランスのマルセイユにおいて委員会が開催された。次回委員会は2006年の春にロシアで開催すべく準備中である。過去3年間の委員会においては、石の劣化についてのグロッサリー(用語解説集)の作成のための議論に



多くの時間が費やされたが、ようやく英語版が完成した。今後さらに多言語版を作成する予定となっている。2005～2008年のアクティブプランを下記に示す。日本のポーティングメンバーである西浦は、3年間副委員長を務めたが、その間、2003年12月にタイ、カンボジア専門家ツアーを開催したことと、タイと韓国からのポーティングメンバーを加えるのに尽力したことで、多少は貢献できたのではと考えている。

*** Training (保存修復研修：稲葉信子)**

ICOMOS - CIF (トレーニング) 委員会は、2005年度中にスロバキアでシンポジウムを1回開催、また中国・西安で開催された総会期間中に委員会を1回開催しましたが、日本からは委員である稲葉も工楽も残念ながら出席できていません。スロバキアで7月1～2日に開催された会合の記録は別添資料の通りです。また副会長Arouz氏からの2005年4月付レター(ISC's strategic planning process)についても議論が行なわれ、回答がこれも別添資料の通り送付されました。トレーニングすなわち人材育成は重要な分野ですが、予算の関係で定期的な会合を開くことができていません。スロバキア・シンポジウムは久しぶりの開催となりました。ユネスコでも人材育成を重視していますが、議論が分散しているのが現状です。イクロムが事務局機能を果たさなくなればばらくになります。改めて連携を模索したほうがいいように考えています。

*** Underwater Cultural Heritage (水中考古学：荒木伸介)**

12月16日、韓国イコモス国内委員長から韓国と日本で水中考古遺産の共同研究の申し入れがあった。「韓国からの転送メール拝見いたしました。開催の暁には何とか参加させていただきたいと思います。新安沈船の調査開始時に、準備のための調査団が来日、少し早めに私が着手していた江差沖海底の開陽丸に、ご案内したりしたことが有ります。この時の団長はご存知の金正基さんでした。先年木浦の海事博物館を見学してきましたが、羨ましい限りです。私と一緒に江差の海に潜った朴さんも、まだまだ若いと思っていたのですが、この

館の館長を最後に引退してしまい、さびしい限りです。また、韓国のみならず、中国にもインド、マレーシアにも、追いつき、追い越されてしまいました。現在のところ、日本は水中考古学の分野ではまったくの後進国です。]

*** Vernacular Architecture (民家：前野まさる、大野 敏)**

西安総会Section 2で大河直躬氏“Everything that Gives Birth is Chaotic Reflections on the Wider Approach to Setting”と題し、発表されました。西安総会でCIAV年次会議が開催され郵便選挙の結果、委員長はMachet氏からカナダのM. Craffe氏に交代、書記長はメキシコのV. Prieto氏、副委員長にはマセドニアのパルマヴィスト氏、それと前野になりました。次回の年次会議の開催地はメキシコ、テーマは「地域の誇り」となりました。

2004年のCIAV総会で鞆の浦港保存の宣言をした結果の説明を求められ、現況を説明。その結果、再度2005年のCIAVでも総会に対して鞆の歴史的港保存の要請をすることになり、これはICOMOS総会最終日の宣言の中に取り入れられました。

(2) 小委員会報告

*** 憲章小委員会 (前第1小委員会) 藤井恵介主査**

12月16日京都で委員会開催した。2000年に全国町並保存連盟で制定され日本イコモス国内委員会が賛同した町並み憲章をイコモス本部へ報告するための英語翻訳の改訂版作成は、ヨキレット博士の適切な助言と思われ、早期に実現するために、秋枝さん、上野先生、益田が早めに改訂原案の作成作業を急ぎたい。なお、ヨキレット博士との話のなかで、東アジアでの復元や再建についての概念の西歐諸国との相違の問題が出て、東アジアでも中国と日本との相違が指摘された。そこで、中国で現在検討中の資料を参考にといただいた。

昨年に中国がオーストラリアイコモスとゲティの支援で作成した国際向けの憲章とはかなり違う内容のよう。中国の伝統的な重修などの考え方と、日本自身の近代以後の保存修理の考え方との整理が、必要なのかもしれない。これは、韓国の修理の考え方の変遷にも関係

しそう。東アジアでのこの分野での比較研究が待たれる。

*世界遺産小委員会（前第4小委員会）稲葉信子主査
担当委員長である稲葉が非常に海外出張の多い職場にいる関係で、申し訳ありませんが、2004年度に引き続き具体的な活動ができていない状況です。世界遺産に関する各種情報の共有は重要なことですが、これには情報源からみて大きく2つの情報ルートがあるかと思えます。すなわち、ユネスコとの契約に基づいて行なわれているイコモス事前審査に係るイコモス側情報、及びユネスコ・世界遺産委員会側情報です。それぞれ会議出席者など関係者からの報告会が最も適切な方法かと思えますが、イコモス審査プロセス、世界遺産委員会とも毎年ほぼ決まった日程で行なわれていますので、情報公開が可能となる時期の検討を含めてそれぞれの適切な時期に、定期的な報告会が可能と思えます。なお、こうした報告会であれば無理なく研究会の開催が可能ですが、これを標記の小委員会を継続してその活動として行なうか、あるいは小委員会の枠外、事務局の活動として行なうか、理事会で検討をお願いしたいと思います。

*プロヴディフ旧市街保存地区内文化財建造物修復事業小委員会（前第5小委員会）石井 昭主査

なお、総会で配布された報告資料の修正版について同主査より本号に掲載の希望があり、別途掲載する。

・現地ワークショップの開催：7月25日～8月5日 開催地／プロヴディフ旧市街地、

・参加者は石井 昭、麓 和善、矢野和之、前野まさるの4名。ブルガリア側はスタネーバ委員長以下28名。

・ワークショップ内容：ブルガリア側は保存事業対象建造物の修理状況の報告。日本側は国際協力事業概要説明と日本の建造物保存と修理状況の説明を行ない、活発な質疑応答をする。

*文化遺産と都市開発の課題検討小委員会 益田兼房主査

我が国の国際的な文化遺産について地域都市開発からおきている課題の検討を担当する。当面は世界遺産白川村の交通問題、他の一つは2004年のCIAV決議の鞆ノ浦港保存問題、特に鞆ノ浦埋め立て架橋問題は一時凍結であったものが、新市長のもとで再稼働し、さらに西安総会の決議の一つともなり、11月28日にはICOMOS 学術委員会 (ISC) 委員長、CIAV 副委員長など海外から3名の専門家を交え福山市と広島県に対し、鞆ノ浦港の保存の要望を行なった。

なお、2005年第3回拡大理事会において日本における既登録の世界遺産を含め国際的に評価される文化遺産について検討し、選定する小委員会を設ける方向で決定した。このことについては2005年次の理事会において検討することとする。

.....

【別途掲載】

現況報告と活動方針 第5小委員会(プロヴディフ旧市街保存事業協力班)

日本ブルガリア両国イコモス国内委員会の共同企画に基づく「プロヴディフ旧市街保存地区内建造物修復事業」(Ancient Plovdiv Conservation Project) は、「ユネスコ文化遺産保存日本信託基金」(UNESCO/Japan Trust Fund) から総額999,738米ドルの供与を保証され、2003年10月以降、実施段階に入った。事業期間は当初、3年間の予定であったが、ユネスコの機構改革に伴い04年5月から05年1月まで予想外の事務停滞(送金遅延)が生じた結果、現在、相応の期間延長を検討中である。第5小委員会(設置：2001年9月、現委員：石井 昭・金原保夫・麓 和善・前野まさる・矢野和之)は理事会との緊密な連携を保ちつつ、引き続き当事業に関わる諸般の実務を担当する。

【現況報告】2005年中に事業はかなり進展した。

(1) 設計監理者と施工業者の選定(加えて予算配分の管理)を任務とする審査委員会(Selection Panel、座長：石井)が年初に発足した。委員は文化省、国立文化財研究



所、プロヴディフ市、ユネスコ、両国イコモス、等の各代表で全13名。(2) この委員会は、事業者たるプロヴディフ市による公募の結果を待って3月中旬、設計監理チーム(主任建築家+構造専門家+修復美術家で構成)計5班を、所定の2段階方式(書類選考、後日、面接と入札)によって選定した。各チームは①Bayatova House 他1棟 ②Klianty House ③Georgiady House ④Hindlian House 他2棟 ⑤Nedkovich Houseをそれぞれ担当し、調査・記録・設計・仮積算・等々の作業を直ちに開始した。(3) 作業の進捗状況に即し、上記委員会は前述と同様の手順を踏んで、6月初旬、工期予定1年間の③④⑤について、また10月初旬、工期予定3年間の①②について、それぞれ施工業者を選定した。残念ながら工事費の免税措置(VAT:20%)が難渋しているため、現在、これらの業者は市の臨時融資を得て、積雪前に終わるべき工事を優先的に実施中である。(4) 一方、ICOMOS Joint WGの活動としては、上記委員会の会期(3月、6月、10月)に合せて、計3回の現地会議を開いたほか、8月2~3日の両日、“Architectural Preservation Practice in Bulgaria and Japan”と題する公開のWorkshopを催した。その模様については麓委員がINFORMATION誌No.7に報告を寄せているので参照いただきたい。

[世界遺産] 旧市街保存地区(面積約35ha、人口約1490人、保護建造物191棟)を世界遺産の一つにするための準備や施策も進んでいる。(1) Joint WGの主査T. Kretev教授の指導のもとでプロヴディフ市が作成した「推薦書」は05年1月末にユネスコへ提出された。9月29日~10月1日にはイコモス(本部)からの「評価ミッション」としてM. Zeev氏が現地を視察し、前述の審査委員会に属する専門家たちと面談した。評価はおおむね肯定的であったので、次回世界遺産委員会でおそらく「登録」が実現するであろう。(2) 登録実現後に予想される来訪者の急増にそなえ、Joint WGを中核とするTask Forceが05年3月~8月の6ヶ月間を費やして、Ancient Plovdiv Reserve Enhancement Projectを立案した。内容はInformation Center 2棟の建設、Georgiady House(現況:博物館)の設備充実、等を含み、実現には多額

の資金を要するので、日本政府による「文化無償援助」を期待し申請書を提出済みである。もちろん採否のほどはまだ分からない。

[活動方針] 2006年次の主なスケジュールは次の通り。(1) Joint WGの第1回現地会議を、3月下旬~4月上旬のうち、約1週間にわたって開催する。最大の課題は、進捗中の修復工事を個別的に詳しく点検し、必要に応じて設計監理者あるいは施工業者と協議することである。また、事業終了後に刊行すべき報告書(Final Report)の編集方針・執筆分担などについて大筋を審議し合意しておくことも、この回の重要課題の一つである。目下のところ、第5小委からは麓・石井の両名が出席する予定である。(2) 当事業の一環として決定されている外国人専門家招聘プログラム(Foreign Expert Invitation Program)を、上記と同じ時期に、2ないし3週間の日程で実施する。被招聘者の任務はJoint WGとプロヴディフ市に対する助言で、帰国時にはレポート提出が求められる。人選を含め、実施要綱は現在、審議中である。(3) 6月末から9月初頭までの9週間にわたり、3週間をもって1期とする実務研修コース(Professional Training Course)を計3回、旧市街保存地区内で開く。対象は建築系・美術系の学生および若手専門家。指導に当たるのは主として設計監理チームと施工業者。主催者はプロヴディフ旧市街管理事務所で、Joint WGが運営の全般に協力する。参加者の募集方法、選考方法、処遇方法、等については第1回現地会議の折にプロヴディフ市と協議の上で決定しなければならない。(4) おそらく10月中旬に、Joint WGの第2回現地会議を開催する。その頃には工期の短い5棟の家屋はすでに修復が終わり、他方、困難ながら甚だ興味深いBayatova + BakalovaとKliantyの修復工事が佳境に入っていることであろう。

主査: 石井 昭(東京都立大学名誉教授)



1. 新入会員および退会者の承認

新規入会者 2004年12月11日～2005年12月22日

入会（個人）

氏名	所属
津村泰範	文化財保存計画協会
辻 喜彦	アトリエ74 建築都市計画研究所
大澤雅章	まち公舎
李 明善	東京大学大学院人文社会系研究科
久保田尚	埼玉大学大学院理工学研究科助教授
知野泰明	日本大学工学部土木学科講師
伊東 孝	日本大学理工学部教授
山内奈美子	文化財保存計画協会
五十嵐ジャンヌ	早稲田大学オープン教育センター
木方十根	名古屋大学大学院工学研究科助手
曾宇泰子	長岡造形大学環境デザイン学科教授
佐伯徳哉	鳥根県教育庁文化財課
村松 伸	東京大学生産工学研究所助教授
高瀬 祐	キャドセンター取締役
山田 修	キャドセンター主任研究員
今川俊一	都市環境研究所研究員
足立克己	鳥根県教育庁文化財課
田中義昭	鳥根考古学会会長
卜部吉博	鳥根県教育庁埋蔵文化財センター
林 泰州	鳥根県大田市役所総務部石見銀山課
中田建一	鳥根県大田市役所総務部石見銀山課
遠藤浩巳	鳥根県大田市役所総務部石見銀山課
中島直人	東京大学大学院工学系研究科助手
宇高雄志	兵庫県立大学環境人間学部助教授
松田正允	文化財保存計画協会 事務局長
松本静夫	福山大学工学部建築学科教授
高木規矩郎	早稲田大学理工学総研客員教授
平野勝也	東北大学大学院情報科学研究科講師
横山晋一	ものづくり大学建築学科講師
中井 祐	東京大学社会基盤学科助教授

窪寺 茂

奈良文化財研究所建造物研究室

入会（維持会員）

社名	代表者・担当者
北野建設(株)	代表者/北野次登 担当者/福島 実 海外建設本部海外営業部長 社寺改修保存関係工事等
(株)小林石材工業	代表者/小林美知 担当者/佐藤哲夫 専務 仙台城、上田城石垣修復元工事等

退会（個人）

氏名	所属	事由
荒樋久雄	上智大学アジア文化研究所共同研究員	交通事故により死亡
黒川直樹	都立大学	都合による
猪熊兼勝	元奈良国立文化財研究所	本人の希望による

退会（維持会員）

大成建設(株)	諸般の事情
---------	-------

2. 国際専門分科委員会委員の承認

以下の国際専門分科 (ISC) 委員について承認された。
Photogrammetry Voting Member (写真測量・文献 CIPA)

山田 修

勤務先 (株)キャドセンター デジタルアーカイブ・ラボ主任研究員

2005年5月 デジタルコンテンツシンポジウム 船井賞受賞

Rock Art Associate Member (岩面画)

五十嵐ジャンヌ

勤務先 早稲田大学オープン教育センター

2003年フランス国立自然史博物館にて先史学研究で博士学位授与

先史学・岩面画美術研究

Cultural Route Associate Member (文化の道)

大野 渉

勤務先 ブレック研究所行政計画室主査 文化庁世界遺産登録業務

Analysis and Restoration Structures of Architectural Heritage Voting Member (建築遺産構造析)

花里利一 勤務先 三重大学建築学科教授



3. 2006 年度活動方針

昨年日本イコモス国内委員会をNPO法人とすることができかどうか調査しました。しかし、会費の一部を本部に送金していることで、国内委員会が国際組織のブランチとみなされるため、認められないということでした。ただ、公益法人の見直しが、政府で現在行われており、今後の展開如何では可能性も出てくるかと思えます。継続して情報を仕入れるつもりでおります。

また、ケルンの大聖堂が危機リストに載ったことに鑑み、日本国内の世界文化遺産にもいろいろな課題が生じてきており、その解決のためにも、日本イコモスと文化庁との定期協議あるいは国土交通省（交通問題、景観問題など）との協議を立ち上げることが必要であると思えます。このため、協議の場をどのように設定するべきか検討していきたいと考えています。この定期協議のなかで特に日本イコモスによる自主モニタリング（韓国イコモスはすでに行なっています）の実行について協議したいと考えています。加えて、ヨーロッパの一部で行なわれている多国間のモニタリング（例えば日中韓の間でも視野に入れるかどうかも協議したいと思えます。

4. 日本イコモス国内委員会 2006 年次予算 (2005/12/23 ~ 2006/12 月まで)

(1) 収 入

2006年分会費	2,700,000円
未納分会費	810,000円
維持会員会費	1,000,000円
普通預金利息	0円
定期預金利息	3,000円
事業費等収入	0円
寄付金	0円
雑収入	0円

合 計 4,513,000円

(2) 支 出

ICOMOS本部負担金	1,200,000円
会議費	100,000円
研究費	100,000円
渡航費補助	0円
通信費	500,000円
印刷費	900,000円
事務用品費	250,000円
事業費	0円
事務局人件費	750,000円

合 計 3,800,000円

(3) 収 支 (収入-支出) 713,000円

審議事項

1. 日本イコモス国内委員会における国際専門分科委員会 (ISC) 活動の活性化と情報の共有化

ICOMOSの国際的な活動は、22余の国際専門分科委員会 (ISC) の研究活動によるところが大きい。各国のICOMOS国内委員会からはVOTING MEMBERとASSOCIATE MEMBERがそれぞれのISCによって選出され、ISC毎の年次会議で建てた活動方針に沿って研究活動・報告を行なっている。日本イコモス国内委員会でもISCの分科に沿って国内外の研究と活動することが求められるのではないかと。また、入会の時に関係するISCを記入することになっているが、これを組織付けて、活動を活性化させたい旨の前野会長の意見が述べられた。日本イコモス事務局には文化遺産に関する多くの海外情報が入ってくるが、これを出来るだけ配信して活性化させることも考えられる。

2. その他

日韓中 ICOMOS ISC の連携協議について

2005年次ICOMOS西安総会で副委員長に中国ICOMOSの郭氏が当選し、執行委員に日本ICOMOSから岡田保良氏、韓国ICOMOSからRii Hae Un氏が当選した。この3国は同じ文化圏であり、近似する文化遺産を多く共有しているので、今後相互協力することが求められるだろう。現在韓国ICOMOSから陶器貿易、水中考古遺産、朝鮮通信使などの文化の道など多分野の研究会開催の提案もきている。しかし、日・韓・中のISCの連携がなく、ISCの会議を開催してもアジアの参加が殆どいない状況なので、少なくともこの3国からでも共同研究を進めようという前野会長から提案があった。この意見に対し、執行委員は限定されたエリアだけではなく、世界全体に責任を持つものであるから、まずこの提案はひとまず取り下げて、関係委員会が非公式の交流をまず持つべきだという意見が出された。

シンポジウム：

“Monuments and Sites in their Setting”（第15回ICOMOS中国西安大会のテーマ）に関する講演と討論

総会の後に同会場で、昨年西安において開催された国際シンポジウムで発表された4論文の講演が行なわれた。演者は以下の各氏。

大野 渉：A CASE STUDY OF A PRACTICAL METHOD OF DEFINING THE SETTING FOR A CULTURAL ROUTE

大河直躬：EVERYTHING THAT GIVES BIRTH IS CHAOTIC: REFLECTIONS ON THE WIDER APPROACH TO SETTING

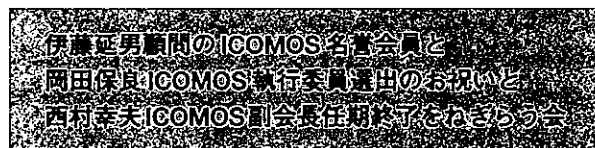
赤坂 信：ADVOCACY OF VISTA-HERITAGE: THE IMPORTANT ROLE OF VIEWING TO MOUNTAIN FOR SETTING IN JAPAN

福島綾子：A WEB-BASED GIS SYSTEM TO MANAGE AND UNDERSTAND CULTURAL HERITAGE AND SETTINGS

内容については、当日配布された「シンポジウム資料」に詳しいが、本誌INFORMATION 6期－8号にも一部掲載されているので、あわせてご一読願いたい。こ

のシンポジウムのメインテーマである遺跡記念物のセッティング（周辺環境）保全に関する投稿論文が600編近く集まるという盛況ぶり、採択されて発表できたのは3割程度だったという。開発が進む変化の激しい現実を見つめる機会を多くの人々に与えたと思う。今後も setting はおおいにテーマとなりうるものだろう。

◇シンポジウム終了後には、和敬塾本館の建物を案内していただくことになった。旧細川侯爵邸であるこの建物は、細川家第16代細川護立によって昭和11年（1936）に建てられた昭和初期の代表的華族邸宅で、戦後一時連合軍に接収され、一部改修されたが、平成10年（1998）3月に東京都指定有形文化財の指定を受けている。この見学会の後に邸内の小広間で、お祝いとねぎらいの会が開かれた。



和敬塾本館の見学会の後、午後5時30分より和敬塾本館のホールにおいてICOMOS名誉会員に推挙された伊藤延男氏、ICOMOS執行委員に選出された岡田保良氏、ICOMOS副会長の役員任期を終了された西村幸夫氏を祝いねぎらう会と会員の懇親会が開催された。



左から石井昭顧問、岡田保良ICOMOS執行委員、伊藤延男ICOMOS名誉会員、西村幸夫ICOMOS前副会長、前野まさる日本ICOMOS会長



遺産建築構造の解析保存部会 (ISCARSAH 2006) 報告

財団法人地域地盤環境研究所 岩崎好規

1. はじめに

イスカーサ(ISCARSAH: International Science Committee for Analysis and Restoration of Structure of Architectural Heritage)のキプロス会議は、2006年2月22～23日の2日間、首都レフコシア(旧名ニコシア)市の科学技術室(the Scientific—Technical Chamber of Cyprus)の2階の1室で開催され、24日には、レフコシアの歴史遺産建築物で城壁門であったファマガスタ門(Famagusta Gate:現在は文化センターとして使用されている)で、一般公開のワークショップ“建築遺産構造の保存—ICOMOS-ISCARSAH 勧告—が開催された。

出席者は、委員長の Pere ROCA (スペイン)、セクレタリーの David YEOMENS (英)、に加えて、本委員会を創設した Giogio CROCI (伊) など約30人のメンバーが参集した。日本からは、花里利一(三重大学)と岩崎好規(地盤研究財団)の2名であった。

会議は、ロカ委員長の用意していた会議メモに基づいて以下のように進められた。

2. ISCARSAH の議論

2.1 西安における会議

西安におけるイスカーサ委員会は2005年10月16日に開催され、“建築構造修復に関する勧告書”の取り扱いと今後の活動が話し合われたこと、また、委員以外の参加もあり、委員としての参加を希望したので、次のキプロス委員会で検討することとなったことがロカ委員長から報告された。勧告書の内容の補完や修正は、今後5年程度は行なわず、誤った語句の修正のみに留めたいという委員長からの発言があった。西安でのイスカーサ委員会の議事録は日本イコモス事務局に送付したので、希望の方はお問い合わせ頂きたい。

①新委員の承認

岩崎を含めて数名が委員として承認された。

②作業グループ報告

③今後の活動としては、

イスカーサ委員会として実際の保存活動への関与が可能かどうかを検討され、地震などの災害緊急時の調査活動、建築構造の非破壊調査法、およびイランのバム遺跡の復旧にむけての現状が、イランからの委員であるヘジャージ(Mehrdad HEJAZI)教授(イスファハン大学)から説明があり、約100を超える復興提案が出されており、耐震性を高めるためのいかにしてアドベを軽量化しつつ高塑性の材料特性を持つような改良を進めるかが問題の一つであるとのべた。

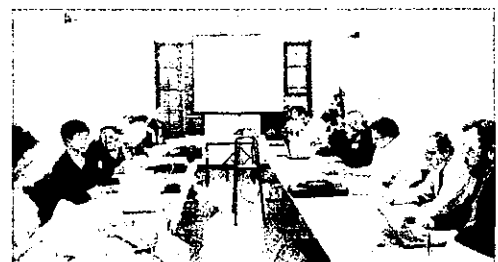
2.2 イコモス科学技術委員会の構造改革

イコモスの科学技術委員会の改革が提案されている件についての報告があった。(The Egar-Xian Principles for the International [Scientific] Committee of ICOMOS, <http://www.international.icomos.org/xian2005/eger-xian-principles.pdf>)

イコモスの科学技術委員会への参画と活動は、イコモスの目的の一つである“遺跡保存の原理や技術を、共同で研究し、成果を広める(Article 5.b)”というためには、資格のある個人会員には開かれている必要があり、また、関連する領域の内部組織や関心を有する外部組織との協調的な活動をも強化する必要がある。

2.3 Scientific Council

各科学委員会の調整委員会としてScientific Councilを設置する。このメンバーは、各ISCのPresidentか委員長の指名する代理委員、ならびに各ISCから選出されたアドバイザーグループ委員で構成され、少なくとも1年に1回開催し、各ISCの活動計画の監督、各ISC間のギャップを指摘し、ギャップを埋めるための必要な勧告を行ない、各ISCの成果をまとめて、理事会(Executive Committee)に報告する。



ミーティング風景

2.4 Scientific Committees

従来、委員は各国から選任されVoting Memberとその他のAssociate Memberとで構成されていたが、この新しい方式では、Expert memberとAssociate member/Corresponding Member/Contribution member/およびInstitutional Member/Honorary Memberとで構成される。Expert memberは、所属する各国のイコモス委員会からの推薦、自薦、あるいはISCからの招請でもメンバーとなることができるし、その総数に限界を設けない。各ISCは、25～30人から構成される理事会(Board of Directors)を設置し、会の運営を図るが、この理事の選挙の選挙権はExpert memberにある。Associate Memberは、ある特定分野での専門領域でボランティア的に活動し、その専門知識習得を目指す人を対象としている。Institutional Memberは、非個人(法人、学術計画、政府機関など当該ISCの活動と密接に関連しているもの)。Honorary Member(名誉会員)を創設するが、選挙権はないものとする。理事会は、執行部役員(Officers of the Executive Committee)と理事(Directors)から構成されて、理事会の構成は25から30人で、異なった国、主要地域別の代表で構成される。以上のような要旨が委員長から説明されたが、委員からの反応はなかった。このような組織改革は、現在の少数委員制度の形態からイコモス会員に関心ある分野の委員として自由に参画できるように開放しつつ、活発な活動が出来るような組織への脱皮を図ろうとしているものである。

2.5 ISO1313822 (Bases for design of structures—Assessment of existing structures)(現存建築物の安全性評価)

国際規格のISO1313822(2001年初版、2003年修正)は、現存建築物の安全性評価の技術的な評価基準を示している。この中には、我々の委員会の作成した勧告内容と類似の内容があり、5年後の2008年に修正の機会があるので、我々の修正案をまとめて、ISO/TC98の作業部会に修正提案をしたらどうかとLyne FONTAIN(カナダ)からの提議がなされた。

3. 技術討議

花里利一(日本)、ソフロニー(SOFRONIE、Ramiro、

ルーマニア)が地震時の耐震問題、コイアス(Vitor COIAS、ポルトガル)がLESSLOSSと称されるヨーロッパ連合における地震と地すべり対応の減災総合計画(<http://www.lessloss.org/>)について、また、フォンテイン(Lyne FONTAINE、カナダ)が、西安会議に関連して中国側からイスカーサ委員会が招かれた万里の長城の視察の状況を報告した。チャチャニフォス(Christos Tsatsanifos、ギリシャ)は、国際地盤工学会における歴史的建造物の保存についての活動を報告し、岩崎好規(日本)が地盤と基礎に関する真正性(Authenticity)について述べた。今後のイスカーサ内のグループ活動として、ISO1313822対応、地震耐震、および地盤基礎に関する問題が挙げられていた。次のミーティングは、2006年11月のニューデリー、2007年4月シカゴが候補として挙げられている。

4. ワークショップ(2006年2月24日)

建築遺産の構造保存-ICOMOS-ISCARSAH 勧告-
歓迎挨拶

・ISCARSAHの活動報告

D. YEOMANS (Secretary、英国)

・ISCARSAH 勧告原則およびガイドライン

P. ROCA (President、スペイン)

・ISCARSAH 勧告—その実施

G. CROCI (前 President、イタリア)

・Athos 山修道院の修復計画

N.Charkiolakis (ギリシャ)

・マケドニアにおけるビザンチン様式教会の耐震補強

P.Gavriovic (マケドニア)

・ダフニー修道院のKathorikonの修復

A.Miltiadou (ギリシャ)

・カナダトロントにおける時計塔修復

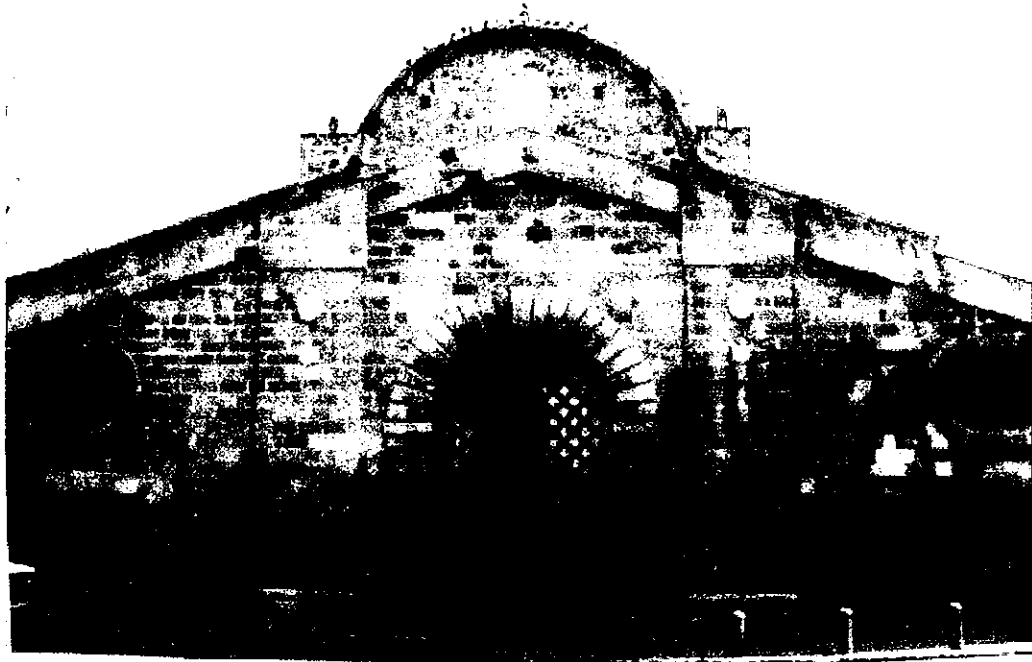
W.Ferwerda (カナダ)

・風化に関与する水分関与プロセスと石灰石の保護

I.IOANNOU (キプロス)

・指定構造物に対する設計ガイドライン

I.Hadjisavva (都市計画建築部、保存課)



- ・バム・シタデルの地震の影響と修復計画活動
M.Hejazi (イラン)、W.Jagger(ドイツ)
- ・マロルカ聖堂の構造解析
P.ROCA (スペイン)
- ・五重塔の地震時挙動とその解析
花里利一 (日本)
- ・ニコシアのオメリエ浴場の保存
M.PITTAS (キプロス)
- ・中世のベルンステン城の歴史的木造の火災前後の特性
M.DRDACKY (チェコスロバキア)
- ・地盤と基礎のオーセンティシテイ
岩崎好規 (日本) C.TSATSANIFOS (ギリシャ)

最後の2月25日は、キプロス島の島巡りに招待されて、山頂にたつ教会や、古い町並み保存のなされている山間観光地で鱒料理を堪能し、レメソス近郊のクリオンの野外劇場で記念写真を撮り、夜はお別れ晩餐会で終了した。

参加者の負担は飛行機代とホテルまでのタクシー代は負担したが、すべての活動は、ホテルの宿泊から島めぐりまで、地元の諸機関からの援助で支援されていた。キプロスイコモスの努力を感謝する。

ワークショップの開催されたファミマグスタ門 (Famagusta Gate)



クリオンの野外劇場にて



日誌 事務局

(2005年12月1日～2006年2月20日)



2005年

- 12/7 NTUNより「THE 12TH INTERNATIONAL COURSE ON WOOD CONSERVATION TECHNOLOGY - ICWCT 2006」の案内受領
- 12/9 (財)ユネスコ・アジア文化センターより ACCU NEWS NO. 353 2006 を受領
- 12/13 第5小委員会開催 (於 文化財保存計画協会会議室)
- 12/23 2005年次日本イコモス国内委員会第4回拡大理事会(午前10時～12時)、日本イコモス国内委員会2005年次総会(午後1時～3時)、シンポジウム(午後3時15分～5時 テーマ: Monuments and Sites in their Setting)を和敬塾にて開催
- 午後5時30分より和敬塾本館(旧細川侯爵邸)において ICOMOS 名誉会員に推挙された伊藤延男氏、ICOMOS 執行委員に選出された岡田保良氏、ICOMOS 副会長の役員任期を終了された西村幸夫氏を祝い労う会と会員の懇親会を開催
- 12/26 [JAPAN ICOMOS INFORMATION]第6期8号発行 維持会員を含む全会員、関係団体に順次送付

2006年

- 1/10 (社)日本ユネスコ協会連盟より 2006 1. vol. 1101 受領
- 1/13 国会議員齊藤鉄夫氏、広島県議浅野洋二氏、国交省大臣官房審議官(観光担当)大西珠枝氏、福山市コンサルタント山下氏に鞆の浦港資料手渡し
- 1/16 ICOMOS Hungaryより「Monuments and Sites 11th volume of the new series」を受領
- 1/17 広島県議 浅野洋二氏、福山市議、藤井真弓氏が日本 ICOMOS を訪問、鞆の浦問題の協議、文化庁文化財部長監査官記念物主任調査官磯村氏、参事官(建造物担当) 荻谷勇雅氏に鞆の浦港資料手渡しユネスコ・アジア文化センターより ACCU news no.352,2005,11 を受領
- 1/18 国会議員宮沢洋一氏に鞆の浦港資料を手渡し
- 1/19 国交省鬼頭局長、鞆NPO法人松居秀子氏、大井氏、法政大学教授陣内秀信氏、広島県土木建築部港湾企画グループリーダー田中英治氏に鞆の浦港資料を手渡し
- 伊藤延男氏より日本イコモス国内委員会に10万円の寄付をいただく
- 1/27 UNESCOより「The World Heritage News letter no,51 November to December 2005/January 2006」を受領
- 1/31 会員に2006年次会費請求の手紙とイコモスカードを送る

日本イコモス国内委員会 維持会員(代表者)

株式会社 尾田組(尾田芳信)	株式会社 鴻池組(大岩祥一)
株式会社 総合計画機構(糸谷正俊)	株式会社 都市環境研究所(矢嶋啓自)
株式会社 乃村工藝社(乃村義博)	株式会社 ブレック研究所(杉尾伸太郎)
株式会社 文化財保存計画協会(矢野和之)	「国宝松本城を世界遺産に」推進委員会(有賀 正)
株式会社 トリアド工房(伊藤民郎)	西武建設株式会社(松下和徳)
株式会社 京都科学(片山 保)	北野建設株式会社(北野次登)
株式会社 小林石材工業(小林美和)	

(敬称略・順不同)

日本イコモス国内委員会の活動には以上の企業のご支援をいただいております。

●日本イコモス国内委員会 理事会 JAPAN-ICOMOS EXECUTIVE BOARD

President	委員長	前野 まさる	Masaru MAENO
Vice President	副委員長	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
Secretary General	事務局長	町田 章	Akira MACHIDA
		矢野 和之	Kazuyuki YANO
		赤坂 信	Makoto AKASAKA
		稲葉 信子	Nobuko INABA
		岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
		小野 昭	Akira ONO
		河野 俊行	Toshiyuki KONO
		田中 哲雄	Tetsuo TANAKA
		西浦 忠輝	Tadateru NISHIURA
		濱崎 一志	Kazushi HAMAZAKI
		日高健一郎	Kenichiro HIDAKA
		益田 兼房	Kanefusa MASUDA
		宮川 朝一	Asaichi MIYAKAWA
		山田 幸正	Yukimasa YAMADA
Trustees	理事	渡邊 保弘	Yasuhiro WATANABE
		沢田 正昭	Masaaki SAWADA
		西谷 正	Tadashi NISHITANI
		Auditors	監事
Advisors	顧問	伊藤 延男	Nobuo ITO
		坪井 清足	Kiyotari TSUBOI

小委員会 WORKING GROUPS

Chiefs	主査	藤井 恵介	Keisuke FUJII
		稲葉 信子	Nobuko INABA
		石井 昭	Akira ISHII
		益田 兼房	Kanefusa MASUDA

●国際諸委員会参加者 REPRESENTATIVE TO INTERNATIONAL COMMITTEES

Executive Member	岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
Advisory Committee	前野 まさる	Masaru MAENO
Specialized Committee on:		
Archaeological Heritage Management	小野 昭	Akira ONO
Analysis and Restoration Structures of Architectural Heritage	岸本 雅敏	Masatoshi KISHIMOTO
	花里 利一	Toshikazu HANAZATO
Historic Towns and Villages	坂本 功	Isao SAKAMOTO
	西澤 英和	Hidekazu NISHIZAWA
Underwater Cultural Heritage Training	福川 裕一	Yuichi FUKUKAWA
	上野 邦一	Kunikazu UENO
Historic Gardens and Cultural Landscape	荒木 伸介	Shinsuke ARAKI
	稲葉 信子	Nobuko INABA
Vernacular Architecture	工楽 善通	Yoshimichi KURAKU
	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
Wood	本中 眞	Makoto MOTONAKA
	前野 まさる	Masaru MAENO
Earthen Architecture	大野 敏	Satoshi OHNO
	村上 裕道	Yasumichi MURAKAMI
Cultural Tourism	伊藤 延男	Nobuo ITO
	渡邊 保弘	Yasuhiro WATANABE
Legal Issues	岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
	宗田 好史	Yoshifumi MUNETA
Photogrammetry	石井 昭	Akira ISHII
	河野 俊行	Toshiyuki KONO
Cultural Routes	山田 修	Osamu YAMADA
	杉尾 邦江	Kunie SUGIO
Stone	大野 涉	Wataru OHNO
	西浦 忠輝	Tadateru NISHIURA
Risk Preparedness	石崎 武志	Takeshi ISHIZAKI
Rock Art	益田 兼房	Kanefusa MASUDA
	小川 勝	Masaru OGAWA
	五十嵐ジャンヌ	Jeanne IGARASHI



JAPAN ICOMOS INFORMATION

Vol.6, No.9 17 MARCH 2006

日本イコモス国内委員会 委員長 前野まさる

事務局担当理事 矢野和之 編集 赤坂 信

〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西1-9-6 アストウルビル3階

株式会社 文化財保存計画協会 気付

Tel & Fax .03-5728-1621 e-mail jpicomos@kb4.so-net.ne.jp

JAPAN-ICOMOS OFFICE

c/o Planning Institute for the Conservation of Cultural Properties

Asutouru Bldg.,1-9-6 Ebisu-nishi Shibuyaku Tokyo 150-0021, Japan

Tel & Fax .+81-3-5728-1621 e-mail jpicomos@kb4.so-net.ne.jp